

大阪天満宮社報

第77号

てんまつてんじん

年首御慶

庚子 元旦

えびす祭.....	3 頁
御即位・限定朱印.....	4 頁
名誉宮司回顧録③.....	7 頁
福梅講 結成七十周年.....	8 頁
梅まつり.....	9 頁
寺井種成大人命三十年祭.....	12 頁
第十回 短歌大賞.....	13 頁



表紙解説

「菅公像」

大阪天満宮所蔵 絹本墨画淡彩
縦一〇五・四cm 横四一・五cm
明治時代 森二鳳筆 一幅
松浦 清（大阪工業大学教授）

笏^{しやく}を手にして威儀を整える貴人の姿が穏やかな表情とともに描かれています。冠を被り、盤領^{まるうち}の上衣を着用するのは、平安時代に貴族の正装とされた束帯姿^{そくたい}を意味するのでしょう。上衣は袍とみられます。冠は纓^{えい}と呼ばれる付属の装飾帯を長く垂らす垂纓^{すいぎ}と呼ばれる形式で、文官が用いるものです。本図の像主は文官でありながら太刀を佩用しており、高位の文官であることがわかります。

像主の下には「集古十種所蔵／薰沐謹写／七十四年 二鳳回」とあります。本図を納める箱の蓋表に「御神影 集古十種所蔵 森二鳳」とあり、蓋裏には「奉納 北区此花町壱丁目 藤本重助」と記されています。明治30年4月25日に藤本重助氏が大阪天満宮に奉納した記録と合わせ、この「御神影」は天神すなわち菅公であり、画家は「森二鳳」であると了解されます。

森二鳳は幕末から明治にかけて大阪で活躍した画家です。石田誠太郎

著『大阪人物誌 続編』には「浪華の人、高麗橋二丁目に住せり、画法を森一鳳^{もろいづ}に受けて之を善くす、安政頃の人なるべし」と記され、典拠とみられる『浪華名流記』（安政3年）に同様の記述があります。『浪華名流記』には師の名前を記していませんが、文脈から森一鳳が師であることは明らかです。森一鳳は江戸時代後期に大阪で活躍した画家です。「藻刈図」という縁起を担いだ作品（藻を刈る一鳳）儲かる一方）で人気がありました。

森二鳳の画風を『浪華名流記』は「羽翼師風翱翔之勢」と記しています。鳥が自由に空を飛翔するイメージでしょうか。また「以己卯生」と記すので、それを信じれば、生年は文政2年（一八一九）となります。本図を描いた74歳の年は明治25年（一八九二）に当たります。

さて、この絵に記す「集古十種」ですが、これは江戸時代後期に松平定信^{またのち}が編纂した古器物図録のことで

す。定信は多くの学者や画家に古器物の全国調査を命じ、その成果をこの図録に収録して刊行しました。寛政12年（一八〇〇）の序文から、この頃に第一次の刊行がなされ、その後も増補されたと考えられています。十種とは「鐘銘、碑銘、兵器、楽器、書画、印章、扁額、肖像、銅器、文房具」の十種類の分類のことです。一八五九点もの古器物が全85巻に収録された膨大な記録であり、調査当時の所蔵先についての貴重な情報も伝えてくれます。

この中の「肖像」に「菅原道真公像」が10図収録されています。その一例「鎌倉荏柄社蔵」の菅公像は、本社報の第33号で紹介した画像によく似ています。しかし、この10図の中には、森二鳳が「集古十種所蔵」と墨書して描いた当該菅公像と同様の作例は見当たりません。これは一体どういうことでしょうか。

森二鳳の菅公像は束帯姿として描かれていたようですが、冠の形式、袍の文様、太刀を帯びるための平緒



菅公像

同像 蔵不詳 田中御家蔵 十春所画

笏の形状、あるいは穏やかな表情も含め、10図のどの作例とも異なっています。敢えていえば「蔵不詳 田安御家臣荒井千春所画」とある倚坐^{いざ}の菅公像（挿図）の袍の文様がやや近いでしょうか。

もともと「集古十種」には大阪天満宮所蔵本は収録されていません。10図の内9図の所蔵先を明記し、1図を「蔵不詳」と記しています。森二鳳はこの画像に触発され、独自に『翱翔之勢』の解釈で菅公像を描いたのでは、と推測したくなります。二鳳の没年を明治24年、74歳とする説がありますが、それは生年を文政元年とするもので、一年の誤差があるようです。その場合、本図は死没の年の制作となります。老境にあつての健筆は、やはり「薰沐謹写」との信仰の力によるものでしょう。

天満天神えびす祭

本年も一月九・一〇・一日の三日間、「天満天神えびす祭」をご齋行致します。今回は令和となって最初のえびす祭です。様々な行事を齋行し、皆様のお参りを心よりお待ちしております。

■天満えびす招福娘

皆様に「福」と「元気」をお授けする「天満えびす招福娘」が新たに選ばれました。今回は、第一〇回目の節目を迎える招福娘の募集だったこともあり、全国から300名を超える応募がございました。



選考会では様々なパフォーマンスが

厳正なる書類・面接審査を経て、昨年一月に二〇名の招福娘が選出され、一二月四日には、天満宮会館において代表選考会が開催され、選考委員の皆様が見守るなか、笑いあり、驚きありの個性豊かなパフォーマンスが行われ、会場は大変盛り上がりしました。

そして、めでたく代表に選ばれた四名には「代表釋」が手渡されました。



招福娘（中央の四名が代表）

招福娘の表敬訪問

去る一二月二日には、大阪府知事・大阪市長様への表敬訪問も行われ、大阪全体に福をお届けできるように「福箕」をお渡し致しました。令和最初の「えべっさん」は、ぜひ、「天満天神えびす祭」へお参り下さい。「天満のえべっさん」の招



大阪府知事を表敬訪問

福娘たちが皆様に大きな福をお授け致します。

■堂島・北新地えびす詣招福行列
一月九日（木）には、第一四回堂島・北新地えびす詣招福行列をご齋行致します。



昨年の招福行列

当宮氏子青年会・天満宮スカウトの皆様が中心となり奉仕されます。当日は、上方落語協会の落語家さんをはじめ、芸妓さん、北新地クイーンの皆様も参加され、大変賑やかな行列となります。

招福行列日程

一月九日（木）

【往路】午後一時半、北新地本通り「都島タクシー」出発。午後二時半、宮入。

【復路】午後四時四五分、天満宮出発。午後六時一五分、北新地本通り「大川ビル本館前」到着。午後六時半～八時、同所にて福笹授与。

天皇陛下 即位礼正殿之儀奉祝祭

一〇月二日午前一一時三〇分
から、本殿において即位礼正殿之儀奉
祝祭が、当宮関係者五〇名余の参列
のもと宮司以下神職により奉仕され
ました。

これは前号で報告させて頂きまし

た御即位奉祝、踐祚改元奉告祭と
もに即位礼正殿之儀を奉祝する祭儀
として斎行されました。祭儀には名
誉宮司をはじめ大阪天満宮の関係者
のうち氏子総代や講社、各団体のご
代表にご参列を頂いた次第でありま



す。
国歌「君が代」の斉唱修祓、献饌
の後、宮司が祝詞奏上し、皇室の弥
栄と国家安泰を祈願いたしました。

先立つて清興として観世流職分の上
野朝義師以下七名の奉仕によって能
『高砂』が舞囃子の形式で演じられ
ました。

直会之儀

祭儀の後、天満宮会館の寿の間
での直会之儀に移りました。これに

この舞は相生の松ともいう高砂の
松が夫婦の松であつて、夫婦の絆と
長寿を祈願する意味があり、大変お
めでたい曲目とされています。その
昔には結婚式には必ずこの謡が奏さ
れたように、謡曲の中では最も有名
な曲であり、大変おめでたい曲目で
もあります。



直会のはじめには、宮司の挨拶が
あり、続いて講社連合会会長の森本
幸一様の先導により聖寿万歳を唱和
いたしました。その後、氏子総代の
坂上隆彦様の発声による乾杯によつ
て宴が開始されました。

一〇月二日の即位礼正殿之儀奉
祝祭に併せて、当宮でも奉祝の記念
御朱印を二種類ご用意し、一〇月末
日までの期間限定で授与させて頂き
ました。

先は、この神話を稲作の起源として
語り継ぎ、稲が日本人にとって神聖
で大切な食物であり、五穀豊穡の象
徴であることを伝えてきました。



職員研修と朝礼

九月から十二月にかけて、私たち大阪天満宮職員は、研修オフィスS A K U R A の櫻井悦子先生を講師にお招きし、マナー講習を受講致しました。

初日の講習会では解っているつもり、の挨拶の姿勢や、相手との距離感、発声の基本、笑顔などについて学びました。

日頃は何気なく挨拶を交わし、参拝の皆様にも笑顔で対応しているつもりでしたが、先生からのご指摘を受けますと「アツ」と思うことばかり、幼い頃から親に躰けられてきたはずの、例えば履物の向きを替えて揃えることなど、疎かになっていたことが多くことに改めて自身の甘さを思い知らされました。

伝統文化を伝え、模範となるべく私たち神職巫女ですから、ご参拝の皆さまに何を求められ、どう行動し、全てに真摯に向き合うべきことなどは、あたりまえであるにもかかわらず、私達の役割存在すら検証してこなかった愚かさを恥ずかしく思います。

二日目以降は、それぞれの職務とは、管理職とはなど私たちの為すべきことの意義について、きちんと熟せているか、職場での総合理解の共有、人の話をしっかりと聞く姿勢と共に話しやすい空間、職場作りを考えているか、上下間の言葉のキャッチボール・上質な会話・上を目指す全てにスキルアップをしなければ私たちの存在価値が失われ、参拝者の皆様から尊敬は得られない、など多くのことを再確認することになりました。

今日までの私の日々の御奉仕を思い、ますます大神様にただただ頭を垂れます。

(糸数智子)



櫻井悦子先生の講義



ご挨拶の実技



境内の掃除も心新たに

来し方をふりかえって (三)

大阪天満宮名誉宮司 寺井種伯

海神社から日吉大社へ

父(種長)が海神社(神戸市垂水区)の宮司として奉職していた時、昭和十五年(一九四〇)四月に私は地元の垂水尋常小学校に入学しました。

しかし、翌年二年生の時、父が坂本(滋賀県)の日吉大社の宮司としてお勤めすることになり、家族で移ることになりました。私は坂本尋常小学校に転校しました。

小学校で、やっぱり私はちよこよこと、やんちゃやったんでしょな。よっぽど何か悪さしたんでしょか、授業で使う大きなそろばんがありますね、先生からそろばんの上に「そこへ座れっ」って言われまして。正座でしたから、そりや痛かったですよ。

四年生と五年生の担任は、多谷武志先生でした。質実剛健な非常に立派な良い先生でしたね。

悲惨な食糧事情

この時代(昭和十八、九年頃)、若い男性はみな出征したわけですから、多谷先生は、おそらく、地元の高等科を卒業されたばかりの、今の高校一、二年生ぐらいだったと思うんです。それで私ら児童と歳が近かったこともあり、とても親近感がありました。

多谷先生は、勉強がでないと、「夜、うちに来い」とおっしゃるんですね。そしてお家へ伺いますと、おにぎりをいつもご馳走になるんです。先生のお家は農家でしたからね。本当はね、私、答えが全部わかって



日吉大社 山王鳥居 (日吉大社提供)

小学校で、やっぱり私はちよこよこと、やんちゃやったんでしょな。よっぽど何か悪さしたんでしょか、授業で使う大きなそろばんがありますね、先生からそろばんの上に「そこへ座れっ」って言われまして。正座でしたから、そりや痛かったですよ。

食べ物はなかったです。昭和十九年くらいだったかな、学校のグラウンドが全部芋畑になっていました。私たち子供も勤労奉仕で、そのお芋を掘っていました。

ある時、お芋を二つ程、こそっと隠しておいて、たまたま神宮皇學館の寄宿生活から帰宅していた兄(種茂)に「お兄ちゃん、お芋隠してあんねん」「おお、そうか、ほな取りに行こか」と取ってきたまして……。日吉大社の宮司職舎がわりあい広かったの、七輪を持ってきて焼いて。それが母(徳子)に見つかってしもて、えっらい怒られてね。「お前は非国民か！」って。「そんなさもないことをする子供は、私の子供とは思いませんっ！」と。そのお芋を食べたかどうか覚えていませんけれど、とにかく七つ上の兄も食べたい盛りでしたからね。

福梅講 結成七十周年

記念式典 結成七十周年を迎えられました福梅講は、一月二七日に記念式典を挙行されました。

福梅講は、昭和二四年に、旧此花町において小坂弥之助氏を初代講元として結成されました。同講については本誌第三二号の「講社めぐり」で詳しく紹介しています。

現在の講元は九代目にあたり、水木一裕氏がおつとめされています。水木氏の父上の水木友男様は五代目の講元をおつとめされておりました。



この記念式典計画は数年前に八代目講元・篠木豊氏の発案により準備が進められていたのですが、今年の天神祭のご奉仕も無事に終え、いよいよ式典が予定されている十一月を目前に控えた八月十三日に篠木講元様は急逝されました。

しかし講員の総意として、篠木講元のご遺志を尊重し予定の式典を挙行することを決断されたのでした。

記念品の奉納 記念式典に先立つて水木講元以下講員は本殿において

講結成七十周年奉告祭を斎行し、記念奉納として白米社の祝詞案（檜材本朱塗り座礼案間口二尺）一台の奉納式を併せて執り行いました。その後、拝殿内で奉納品を中心に置いて記念写真の撮影を行いました。

祝宴 本殿参拝の後、天満宮会館に移って記念式典が開催され、名譽宮司夫妻、宮司夫妻をはじめ、当宮の氏子総代や他の講社の代表など約六〇名が招待されました。

開會に先立つて、篠本前講元に黙
 祷を捧げ、その御功績をお偲び申し
 上げました。

会では、はじめに福梅講からの奉納について、寺井宮司から水木講元に奉納受領証が交付され御礼を申し上げました。

続いて講元による挨拶があり、次ぎに寺井宮司が挨拶を申し上げました。この後來賓が紹介され、來賓を代表して講社連合会会長で天神講獅子講元の森本幸一様のご挨拶をされました。



前講元のお写真が飾られたテーブルにもたくさんのグラスがならべられ、賑やかに歓談の輪が広がっております。

途中には寺井名譽宮司のお話があつて、戦後まもない頃の天神祭の様子など往時を偲ばれるお言葉に一同耳を傾けておられました。

時の過ぎるのも忘れる程にお話はあふれていましたが、副講元の中村清様の閉会の辞と大阪締めによつてお開きとなりました。

地域氏子の講として結成された福梅講が長年と継承され九〇年、百年と続いて御奉仕されますよう益々のお栄えを祈念申し上げます。



第一六回

乙未天神梅香

「盆梅と刀剣展」



今年も二月一日（火・祝日）から三月八日（日）まで「てんまつ天神梅まつり」を開催いたします。

例年の「盆梅」に合わせまして、
今回も昨年に引き続いて「刀剣」の展
示も併設いたします。名刀十数振り
と、伊勢神宮より拝領いたしました

御下賜の御太刀、御鉾も展示します。

もちろん、この他にも当宮に所蔵します「天神画像」等の掛軸も併せて展示いたします。

また、期間中には「盆梅と刀剣展」の他にも、次のような行事の開催しております。

- ▼二月二十八日～二十四日
梅酒市
- ▼二月二日
講演・日本舞踊（15時～16時）
- ▼二月三日
篠笛（15時～15時30分）
- ▼二月二十五日～三月一日
陶器・アートクラフト市
- ▼三月二日～八日
全国地域物産展
- ▼三月七日
伊賀ニンジャフェス
- ▼三月八日
水墨画奉納式（13時～）
- ▼三月八日
ふるまい餅つき（10時～）
- ▼三月八日
水墨画体験（13時～14時）

菅原道真公千百二十五年大祭に向けて
三井寺文化財収蔵庫の視察

を学ばれていました。兩人に交流があったか否かは不明ですが、奇しき縁と言えましよう。

去る一月二八日、寺井宮司が滋賀県大津市の三井寺（園城寺）を訪問し、平成二六年一〇月に開館した「三井寺文化財収蔵庫」を視察しました。

当日は、三井寺の福家俊彦執事長と、同館の建設にあたった榎丹青研究所の担当者の説明を受け、収蔵庫建設にあつての具体的な留意点や展示の工夫などについてご教示いただきました。

視察の目的は、令和九年に迎える「菅原道真公千百二十五年大祭」の記念事業として計画している「収蔵庫兼宝物館（仮称）」の参考にするためです。

同収蔵庫は、三井寺の開祖・智証大師生誕一二〇〇年慶讃記念事業として建設され、同寺に所蔵される国宝の狩野光信筆「勸学院客殿障壁画」三九面をはじめ、仏像や仏画・仏具などの重要文化財一三件五三点を収蔵するとともに、その一部が展示されています。

ちなみに、智証大師（八一四～八九一）は、菅原道真公（八四五～九〇三）と同時代の天台僧でした。智証大師が、天台座主（延暦寺の住職）に就いた貞観一〇年（八六八）には、道真公は大学寮で文章道



左・福家俊彦執事長、右・寺井種治宮司

浪速菅原吟社詠草

雪校 松村曉二撰

六月席題 雨後牡丹（分韻）

鵬城 北野修司 得支韻

露餘庭上嫩紅披 漢帝曾憐濃艷姿

無語有情含富貴 露華一滴皓氷肌

（訓読）露餘の庭上 嫩紅披き 漢帝曾て憐れむ 濃艷の姿 語無く情

有つて 富貴を含み 露華の一滴 氷肌に皓る

（通釈）雨がやんで庭には薄紅の牡丹の花が開いた。漢の帝、実は玄宗皇帝が楊貴妃の姿をみた。花はお喋りはできないが富貴の情を含んでいる。露の一滴は色白の肌のように光っている。

七月課題 夏日 海村
九十四翁 傲水 上田清文
群兒時撥刺 忘暑久徘徊
浩蕩潮風爽 海村生氣回
（訓読）群兒時に澆刺 暑を忘れ久しく徘徊 浩蕩潮風爽やかに海村 生氣回る。
（通釈）子供達は澆刺として海辺に戯れている。老生は暑さを忘れ久しく歩き回った。広々として潮風が爽やかで、生氣が回るようだ。

九月課題 秋光 小徑

未醒 梅津史子

草徑牽節涼氣流 晏天雁度白雲浮

吟蛩左右愁來路 更引詩情一葉秋

（訓読）草徑 節を牽けば 涼氣流れ 晏天 雁度りて白雲浮かぶ 吟蛩左右 愁い来るの路 更に詩情を引くは一葉の秋

（通釈）夏草の小径を散策すれば初秋を感じる涼気が流れている。秋の晴れたる空、もう雁が渡ってきたのか、足下の左右では虫が鳴き出した。更に秋を感じる桐の葉がはらりと落ちた。

十一月席題 晩秋郷里
鐵鳳 安東勝幸 得元韻
茅屋疎鐘鳥雀喧 送秋蟋蟀語荒垣
夜深落葉蕭蕭響 晚節鄉愁霜後村
（訓読）茅屋疎鐘 鳥雀喧し 秋を送る蟋蟀 荒垣に語る 夜深くして落葉 蕭蕭の響き 晩節 郷愁 霜後の村
（通釈）茅葺きの家（我が家）お寺の鐘が聞こえ雀がいない。晩秋になり、こおろぎの声も細くなって秋を送っているようだ。夜ふかまるなか落ち葉の音が微かに聞こえ、ああ何と言う寂しさか、霜の降る村里。

第二回

あの人もこの人も



伴一朗さんを偲んで

今回は、多くの方に惜しまれ今年九月に他界された伴一朗さんをご紹介します。

伴さんは、伴ピリアル株式会社代表取締役や、プロデューサーなどとして幅広く活躍され、当宮にも深く関わりのある方でした。

伴さんは、兵庫県尼崎市のお生まれで、三〇歳まで尼崎市の職員として勤務されて、七年間、プロデューサーとしてご活躍の後、一九八六年一〇月に会社を設立されました。

同社では「くだおれ人形」や「かに道楽」等の看板キーホルダーの制作、また企業広報のコンサルティング・観光商品の企画事業なども展開

社務所 電話番号だより

よくあるお問い合わせ

「節分の豆まき」

この時期になりますと「天満宮でも豆まき行事はされていますか？」と、たくさんのお電話をいただきます。当宮では豆まき行事は行なっていないのですが、神社ならどこでもしているというイメージがあるのでしようか。

冬から春に変わる節目で陰から陽への移り目となる節分の夜には普段姿を隠している鬼や魔物が出現しやすいと考えられていました。



この日に鬼を追ひ払うのは、中国から伝わった「追儼（ついな）」という行事の影響です、平安時代ごろの宮中では鬼払いの役人が桃の弓と葦の矢で魔物を追ひ払う所作を行っていました。これが生命の元を意味する豆を鬼にぶつけて追ひ払う形に変化し、豆まきとして室町から江戸時代に庶民に広がったようです。

豆はぶつけた時に大きな音が出るから鬼が怖がるのか、魔を滅する

（魔滅＝まめ）につながるのかの俗信もあるようです。また、年齢の数だけ、あるいは年齢に一つ加えた数の豆を食べる習慣も生まれました。一つ多く食べるのは来年も「忠実（まめ）」に暮らせますようにと願う気持ちともいわれています。

同様に年の数の豆を半紙に包んで、干支と数え年を記して神社に納めることも行われています。節分の夜は「厄除け」を願う

人々がたくさん参拝され、多くの豆が大前に納められます。豆まきのほかに、各家庭においては柵の枝に焼いた鰯の頭

をつけて門先に付ける「焼臭（やいかかし）」というおまじないをする場合もあります。これは柵の尖った葉と鰯の臭いを鬼が嫌うので鬼が家に入らない為のまじないのようです。

近年は若い人の間でも厄除けに関心を持つ方が多くなっています、それだけ社会に不安なことが多いのでしょうか。もしかすると本当の鬼や魔物は私たちの心のどこかに潜んでいるのかも知れないのですが。

天満宮においては、近江八幡和船組合から「茅の輪」の葦を奉納頂くようお取り計らい頂き、またゴミ問題に対しても、地元企業・有志を募り、ボランティア団体「天神祭美化委員会 ダストバスターズ」を結成されるなど、その活動は年々広がりをみせていました。

「あの世とは、ちよつと隣の部屋に行くようなもの」、伴さんのお言葉を思い出すと、生前の頼もしい笑い声が、どこからか聞こえるような気が致します。

「あの世とは、ちよつと隣の部屋に行くようなもの」、伴さんのお言葉

先々代宮司

寺井種茂夫人命三十年祭



去る一月一三日、寺井種茂夫人命の三十年祭が、寺井種伯名誉宮司を祭主として斎行されました。

参集殿の大広間に設えた御帳台に御霊代を奉安し、御遺影をお飾りした祭壇には饌に加えて、生前にお好みの品などもお供えされました。

斎主は大阪護国神社宮司の南坊城充興様、祭員は現職員のうち、種茂宮司の頃から奉職している岸本政夫禰宜、糸数智子権禰宜、糸数昌史権禰宜が奉仕し、奏楽なども職員が奉仕して厳肅に斎行されました。

親族をはじめとする百名余り参列者は、参集殿の春・夏・秋・冬の間に着席し、斎主の祭詞奏上、玉串奉奠の後、祭主が拝礼を行い、続いて

寺井種治宮司はじめ親族と、遠近各地から生前に親交のあった神職や縁の深い参列者が一人ひとり玉串を奉つて拝礼を行いました。



偲ぶ会

祭儀のあとは、天満宮会館の孔雀の間に移って偲ぶ会が行われました。会場正面に飾られたお写真の前には御膳が供され、種茂夫人命の同級生だった当宮元禰宜の豊住律人様から、缶ビールなどもお供えされました。開会にあたって、祭主である寺井種伯名誉宮司が、昔の想い出話など交えながら御礼の挨拶を申し上げました。

参列者を代表して神社本庁総長の田中恆清様、黒住教名誉教主の黒住宗晴様のご挨拶をされました。

ここで親族の寺井睦様が御霊前の御膳をお進め申し上げて、献杯之儀が行われました。献杯の発声は太宰府天満宮第三九代宮司の西高辻信良様が在りし日のことなどお話を頂いて献杯をされました。

続いて、偲ぶ宴がはじまったところで、寺井種治宮司が種茂夫人命の想い出とともに挨拶を申し上げ、各テーブルでは和やかに盃が重ねられ、数々の想い出話に花が咲いておりま



した。

色々とお話も尽きないようではありましたが、名誉宮司夫人の寺井紀美子様が御礼の言葉を申し上げて偲ぶ会はお開きとなりました。

三十年を過ぎた今にあっても、まるで昨日のこのようにお話をされる皆様を拝見しておりますと、大人命様のお人柄が如何に偉大であったかと今更ながら思われることであります。

御霊の安らかにお鎮まりになりますこと、寺井家と大阪天満宮をお守り下さいますことを衷心よりお祈り申し上げます。



第十回 天神祭 献詠短歌大賞 入賞・入選短歌

大賞 ◆ 大阪の八百八橋くぐりたる船は涼しき水脈を曳きゆく(小松丈夫)

香川ヒサ賞 ◆ きみの生まれた町のまつりにゆく きみの生まれた町のかみさまに会ふ(有村桔梗)

加藤治郎賞 ◆ 大川の千の団扇がかるやかに花火の匂いの風かき回す(toron*)

高田ほのか賞 ◆ とりどりの作り笑顔の面を売る女の闇をひとつください(龍田憲児)

大阪天満宮賞 ◆ 肩車ゆられて伸ばす小さき手 追いて焦がれる玉神輿かな(うすいあさぎ)

天神橋筋商店街賞 ◆ 獅子頭踊らせ十丁ねり歩く青年達は汗とび散らし(家治綾子)

大賞 ◆ かさおどりすずなりひびきが始まった令和最初の天神祭(田中 舞)

香川ヒサ賞 ◆ 夏の夜男がかつぐおみこしは空で暴れる竜のごとし(神谷雄太)

加藤治郎賞 ◆ あがるたび歓声起こる人波の中に聞こえる君の息づかい(野山絢華)

高田ほのか賞 ◆ 夏祭り私と家族話したり花火のような顔をしている(林 思形)

大阪天満宮賞 ◆ これが最後前を向いて踊り出す少し寂しくとても楽しく(横山七桜)

天神橋筋商店街賞 ◆ 雲のない祭りの昼の青空に届けるようにみこしを上げる(榎本一葵)

平成二十二年に歌人の高田ほのかさんと天神橋筋商店連合会の土居年樹会長が始められた短歌コンクールは第五回から天神祭献詠短歌大賞と

して神前奉納されるようになり、通算五千首を越える短歌が詠進されました。撰者には香川ヒサ先生、加藤治郎先生をお迎えして審査が行われ

てきました。今回第十回をひとつの区切りとしてこの献詠を閉じることとなりました。文学の神様、歌の神様としても崇敬される当宮には大変

意義の深い行事であり、老若男女多くの方からお歌が献納されたことは御祭神にもお喜び頂けたことと拝察する次第であります。

神職の問わず語り(一)

今号から「神職の問わず語り」の連載を始めます。神職として日々の心構えや、気になることについてのコラム欄です。「問わず語り」とは「聞かれてもいないのに自ら語りだす」意です。とはいえ、押しつけがましくならないように心掛けながら、胸中を吐露いたします。

第一回目の今回は、日ごろから気になっている言葉を幾つか紹介させていただきます。

最初の言葉は「百術は一誠に如かず」です。「いくつもの権謀術数を巡らせようとも、誠を尽くすことには敵わない」という意味です(『報徳記』三宮尊徳)。

上手いかわいなのは自分の誠意が足りていないものだと、たゆまぬ努力を続けていく重要性を説いた大切な言葉だと思います。

次の言葉は「神職は、真つ直ぐな、芯の入った人であれ、また、社会の師表(しひょう)となれる人物であれ」です。

神職の資格を取得する際の恩師の先生方がしばしば仰っていたのを昨日のことに思い出します(師

表とは、お手本の意味)。確かに、他人や環境を口実にして、自分は努力を怠ってしまったのではないのか。人として恥ずかしいような人物となっているのか。いま一度、自分自身を見つめ直すと、まだまだ胸を張れるような人物とはいえませんが、なかなかどうして、自分を律し、謙虚な生活を送ることはこんなにも難しいものだったのかとつくづく思う次第です。

また、「神道人は生涯現役である。一生を掛けて学び、良い社会を作るために神明奉仕に励むのが重要である」とか、「神道人として何が出来るのかを常に考えるべきだ」とも、先生方は仰っておられました。

私たち神職の使命と地域社会への役割といったものも考えて、神明に奉仕する重要性を説いた言葉であると思います。

これらの言葉を胸に、気を引き締め直さねばならないと思いました。常日頃から、参拝者の方々をはじめ氏子の皆様から見られていることを肝に銘じ、「さすが、天神さんの職員さん達やで」と仰って頂けるよう、なお一層、神明奉仕に励むことの大切さとその難しさを感じています。(小林倫宏)

千支絵馬

庚子(かのえ・ね)

昨年は「己亥(つちのと・い)」の年でした。それまで蓄えてきたエネルギーを踏まえて、規律を正し始める年でした。まさに今上陛下の御即位にふさわしい年柄だったと言えます。

さて、今年は「庚子」の年です。

「庚」には、三つの意味が含まれています。一つは「継承・継続」、二つは「償い」、三つは「更新」を表します。つまり、庚の年には、前年までの流れを継続しつつも、改めるべきところは改め、思い切った更新に向かわなければならぬのです。

一方の「子」は、「了(おわり)」と「一(はじめ)」に解字できます。すなわち、ものの「終り」であって「始め」であるという、万物の循環を表しているのです。「子」の意味を、新しい生命が種子の内部から萌し始める状態だと説明される

ことがあるのはそのせいなのです。さて、右のような「庚」と「子」が組み合わさる今年は、これまでの継続を保ちつつも、未来を見通し、新たな循環が始まる年だということになります。

令和の御代に、より輝かしい時代の循環が始まることを祈念したいと思います。

(安岡正篤大人の著書より)

令和二年元旦 大阪天満宮



■ 帰幽報告 ■

前 福梅講 講元
篠木 豊 様

大阪天満宮献詠 風月社
令和元年下半年秀歌

ふゆあかねひかりとけあふ祝賀列
而陛下いまふれあひ披らかゆ

幹事 佐野 秀子

いつまでも灯しつつけり友垣の
老ひ知る今も消ゆることなし

幹事 松村 暁二

ふる里の近江平野の青田なか
孤高の人めく白鷺のたつ

東大阪 中山 里江

幾度も上りては落つ噴水の
しふきに捨てる沈むころを

神戸 鈴木 敬子

萩すすき秋は山より下りくるか
河原も寺も穂になひきあふ

大阪 金生 久夫

ニューヨークハドソン川の星月夜
一際白き自由の女神

大阪 大北 滋保

満天のふかきを照らす星月夜

虫の音のます道をたゆたふ

大阪 中瀬 央子

曾爾高原すすきに夕はえまさりつつ
白かねこかね闇にとけゆく

大阪 竹久 英子

海に浮かふ蠟燭島に夕茜
空の青にも海の青にも

大阪 家治 綾子

ささやかに願かふことさへ日々新た
流れては湧く噴水の虹

東大阪 乾 恵子

千年の巨樹の銀杏のもみちして
夕茜つつ空せはみくる

東大阪 北岡由紀子

年ふりてすすきに思はるちかころは
わひしなからも風情そそらる

大阪 伊藤 涼子

飛火野のほのかな燈ゆるゆると
歩む鹿らの影をうつして

八尾 南口一二美

その羽に雪のおもかけ残すとや
暑きをしらて漁る白鷺

東京 御手洗靖大

秋ふかみ宿直仕ふる夜ふけて
かそけく見ゆる殿の御燈

福宜 柳野 等

天満宮スカウト日誌

令和元年七月〜二月

◆天満宮スカウト合同行事

七月 銚流し神事参列 天神祭船渡
御・奉納花火奉仕

◆ボーイスカウト大阪第九八団
七月
ビーバー隊 工作・ハイキング
カブ隊 海水浴 ボーイ隊
キャンプ・肝試し

ベンチャー隊 武蔵野計画会議
ローバー隊 夏季行事企画会議

八月
ビーバー隊 マキノ高原夏季合営
カブ・ローバー隊

田村神社
夏季合営
・野営

九月
ビーバー隊
工作・

ハイキング
カブ隊
カブブック履修

ハイキング
ボーイ隊 地図・コンパス

ハイキング
ベンチャー隊 武蔵野遠征

ローバー隊 四国遠征計画会議



十月

ビーバー隊 ハイキング・
天満音楽祭鑑賞
カブ隊 カブブック履修

ボーイ隊 班集会キャンプ炊事
ベンチャー隊 報告書作成会議

十一月

ビーバー隊 地区自然体験プログラム
博物館体験
カブ隊 カブラリー 写生会
月の輪プログラム

ボーイ隊 地区友団合同合営
サイクリング

◆ガールスカウト大阪府第八二団

七月

ブラウニー・テンダー部門
デイキャンプ
ジュニア部門 文化体験(浴衣)

八月
ブラウニー・テンダー部門
クラフト集会

ジュニア部門 お片付け集会

九月

ブラウニー・テンダー部門 水浴
ハイキング
ジュニア部門 キャンプ新聞
文化鑑賞(日本音楽)

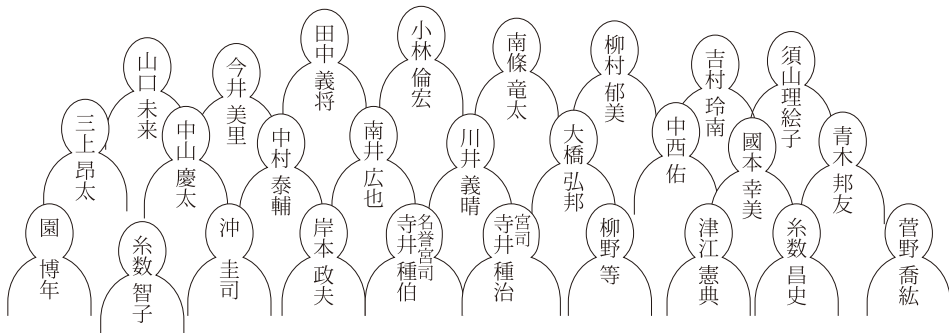
十月 全部門 芋ほり

ブラウニーテンダー部門 体験集会

十一月

全部門 みんなの集い 課外授業
ジュニア部門 ブロック行事

謹賀新年



編集後記

来る令和九年には、「菅原道真公
千二百二十五年大祭」を迎えます。平
成一四年の「千百年大祭」がまだ記
憶に新しいところですが、早くも次
の大祭が八年後に迫っています。

一〇頁に記したとおり、当宮では、
この大祭を記念して「収蔵庫兼宝物
庫」の建設を計画しています。完成
の暁には、鳳神輿や玉神輿をはじめ、
御迎え人形（大阪府指定有形民俗文
化財）や、伝長谷川光信「天神祭祀
船渡御図屏風（大阪市指定有形文化
財）」などの当宮所蔵の文化財を展示
することになります。

しかし、御迎え人形だけでも一六
体もあり、この他にも大型の船地車
「天神丸」も果たして展示スペース
を確保出来るのか、これから詰めな
ければならないことが山積みです。

大阪天満宮社報

てんまてんじん 第77号

令和元年12月25日印刷

令和2年1月1日発行

発行人 寺井種治

発行所 大阪天満宮社務所

〒530 0041 大阪市北区天神橋2-1-8

TEL 06-63353-0025

印刷所 木村印刷株式会社